



2025年4月1日発行  
 (毎月1日発行)  
 1984年8月15日第3種郵便物認可  
 発行所/(公財)熊本YMCA  
 〒860-8739  
 熊本市中央区段山本町4-1  
 Tel 096-353-6397代



熊本YMCA学院 建築科 2023年度卒業生  
 株式会社アネシス アーキハウス一級建築士事務所  
 稲葉 圭佑 さん

## 公務員から転身。一級建築士を目指す

合格率の平均が1割程度と言われている難関の一級建築士試験。2024年3月に熊本YMCA学院の建築科を卒業し、直後の7月に受験した一級建築士の学科試験、その後の製図試験に一度で合格するという快挙を成し遂げたのが稲葉圭佑さんです。稲葉さんは高校卒業後に就職。5年間社会人を経験したのちに、建築科の門を叩きました。その理由を尋ねると、「もともと、建築が好きだからこの道を選んだというわけではないんですよ」と意外な言葉が返ってきました。

山鹿市出身。公務員として市役所に勤務していた稲葉さんは、バリバリに仕事をこなしていた「カッコよかった先輩」たちが定年などによって第一線から退いていく姿を目の当たりにします。稲葉さんは、市役所での仕事にやりがいを感じながらも、「自分の建築士事務所を持つ父は、60代だけれど今でも探求心をもって楽しみながら仕事をしてる。私も、自分の武器を見つけて実績を積み上げていきたい」、「お客様の想いと自分の想いを直接的に形にできる仕事が自分の性格に合っているかもしれない」と退職を決意、熊本YMCA学院建築科へ進学します。

## がむしゃらに、ひたむきに

### 一人じゃないと思えた学生時代

「高校まではそれほど勉強していなかった」という稲葉さんですが、建築科の授業は本気で取り組むことができたと言います。「先生たちの授業は楽しかったし、新しいことを学ぶ面白さが分かりました」。しかし、当初は焦りもあったそう。「私がYMCAに入学したのは23歳の時でした。大学などに進学した同級生らが働き始めて、1年目、2年目の頃。それなのに自分は学生に戻ってるといふことに、もどかしさを感じました」。一方で、YMCAでは高校を卒業したばかりの優秀なクラスメイトに出会い、「5歳も年下なのに、すごい人いるんだ」と脅威を感じることも。日々、資格試験に向けて勉強をして休みの日は建築物を見学に行くなど「何かしていないと怖かった。力をつけようとしてあがいていた」という稲葉さんを支えたのは、同じく社会人を経験しているクラスメイトの存在でした。「自分より年上の人も多かった。休み時間に一緒に勉強をしたり、『一人じゃない、自分だけじゃない』と思える環境でした」。

「建築が好きだから、この道を選んだわけではない」と言っていた稲葉さんですが、次第に建築業界に対する想いも変わっていきます。「必死に勉強をする中で、建築物の魅力に気づきました。何をやるにしても、がむしゃらにやってみることで、得られること、分かってくることありますね」と語ります。



熊本YMCA学院建築科時代の稲葉さん

### 挑戦を続ける

2年間の学びの集大成である卒業制作では、山鹿市の市街地の盛り上がりを取り戻すことをテーマに建築設計に取り組みました。実在する土地を建築場所として想定し、観光客も山鹿市民も楽しむことができる建築物を提案。「様々な建築物について調べて、設計を考えることはとてもよい経験でした」と振り返ります。

卒業後は父親の仕事を手伝いながら勉強を続け、試験に合格。1月からは、熊本市内の建築士事務所に勤務しています。「今は、お客様の要望を聞いてプランを作って設計をしています。まだ実績がないので、次から次に自分の課題が見えてきます。一級建築士試験に合格したからこそ、『受かったのに、こんなことも知らないの?』という言葉が付きまってくる。資格と実力の差を埋めていかなければいけません。課題が尽きることはありません」。

建築業の魅力について、「お金を稼ぐ為に仕事をするのも建築だし、自分のこだわりを貫くのも建築。仕事の幅が広くて面白い」と稲葉さん。「建築科への入学を決意して本当に良かった」と話す稲葉さんに、今後の目標を尋ねてみました。「お客様の本当の気持ちを引き出して、お客様も自分も満足できる仕事をしたい。そして、将来は何かひとつ、住宅関係の賞を受賞したいですね。せっかく生きているのだから、名前が残るものを作りたい。これからも、あがいていきます」と語る眼差しには確かな覚悟が宿っていました。

## Pickup

熊本YMCA学院  
日本語科卒業式



熊本五福幼稚園  
卒園式

永草保育園  
卒園式



# 光永尚生さんから伊藤眞太郎さんへ 熊本YMCA総主事が交代



伊藤眞太郎さんによる挨拶



田口努さんによる祝辞

2021年8月から熊本YMCAの総主事を務めた光永尚生さんが2025年3月末をもって退任し、これまで東部グローバルコミュニティプラザの館長を務めてきた伊藤眞太郎さんが熊本YMCAの総主事に就任しました。3月22日(土)には、熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターで総主事就退任式を開催。第1部礼拝では日本基督教団熊本草葉町教会牧師の森嶋道さんが「少しずつ、ふさわしく」と題して奨励。光永さんから伊藤さんへ聖書の引継ぎが行われました。第2部就退任式では、伊藤さんが「『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい』。この聖書の言葉にあるように、皆さんと共に仕えあいながら歩んでいきたいと考えています」と挨拶。日本YMCA同盟総主事の田口努さんから祝辞が送られました。茶話会も行われ、なごやかな雰囲気の中、閉会しました。

## 伊藤 眞太郎

1981年4月21日生まれ 所属教会：日本キリスト教団熊本白川教会  
 2005年4月 盛岡YMCA入職(本町センター、ウエルネス、アフタースクール、野外教育等)  
 2019年4月 熊本YMCA出向 ウエルネス事業部副部長 みなみセンター  
 2020年4月 熊本YMCA移籍 ウエルネス事業部副部長 ながみねファミリーセンター  
 2022年4月 専修学校熊本YMCA学院 こども保育科教務主任  
 2024年4月 東部グローバルコミュニティプラザ館長 アフタースクール事業部長 野外教育事業部副部長



## ●新総主事 伊藤眞太郎さんに12の質問●

### 1. 趣味は何ですか？

釣り。(何釣りですか?)チヌ釣りが好きです。  
 それと、スポーツ観戦と食べること。  
 スポーツ観戦は、相撲、サッカー、野球。スワローズファンです。  
 プロレスも、ラグビーも好き。

### 2. 好きな食べものは？

お米!

### 3. 子どもの頃の夢は？

サッカー選手です。高校卒業までやっていました。

### 4. 好きな言葉や座右の銘はありますか？

「うまくやるより全力でやる」

### 5. 毎日必ずすることはありますか？

本を読みます。(ジャンルは?)なんでも読みます。

### 6. 一番幸せを感じる時は？

ご飯を食べている時です。

### 7. こう見えて私、〇〇なんです。

こう見えて、人見知りです。(意外ですね)よく言われます。

### 8. YMCAとの出会いは？

大学生の時に盛岡のYMCAでリーダーをしました。

### 9. 2019年に盛岡からいらっしました。

熊本に来てビックリしたことは？

醤油が甘い!

### 10. 仕事をする上で心がけていることはありますか？

まずは自分からやる。そして自分のことは後回し。

### 11. YMCAにいて一番うれしいことは？

年齢、国境、いろんな層を超えた、多様な人と出会えること。

### 12. 会員の皆さんにひとこと

皆さんと思いを共有して豊かな社会の実現に向けて共に歩んでいけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

## 熊本YMCA 総主事 伊藤眞太郎



### 歴史を紡ぎ、共に歩む

この4月より熊本YMCAの総主事を務めることになりました、伊藤眞太郎です。信仰と共に歩み、YMCAの働きを皆さんと共に深めていきたいと思ひます。また、このコラムを通じて、日々の気づきや想いをお伝えできればと思ひています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、YMCAは先人たちの祈りと努力によ

て、今日に至るまで多くの人々の奉仕と献身によって支えられ歴史を紡いできました。その歴史は、私たちが誇るべきものであり、称えるべきでもあります。そして、その歩みのすべてが神様から与えられたものであることを忘れてはなりません。神様は、YMCAの使命も、働きも、そして共に歩む仲間も与えてくださいました。これからの未来においても、私たちはその恵みを受け取りながら、信仰に実直に、イエス様に倣い、心を込めてYMCA運動に取り組んでいくことが求められています。

しかし、今日の社会は変化が激しく、不確実で予測の難しい時代となっています。こうした

社会状況の中では課題も多岐にわたり、個々が孤立しやすくなり、どれほどの恵みを受け取っても、前に進むことが困難になっています。だからこそ、連帯や希望を生み出すためにも、「共有・共感・共同」を大切に、それぞれが支え合いながら信じた道を全力で、皆さんと共に歩いていくことが必要だと感じます。

この先も歴史を紡ぎ、「よくなる」の連鎖を生み出し、希望ある真に豊かで平和な社会を目指し、日々の祈りと感謝の中で、神様が与えてくださる「マナ(恵み)」を受け取りながら、私たちに託された使命を果たしていく事を願ひ祈ります。

## R | E | P | O | R | T

募 金

## BAPY利用報告も 年末募金感謝会を開催



リソース推進委員長 佐藤通彦

11月から1月末まで取り組んだYMCA年末募金。その感謝会を2月28日(金)、熊本YMCA本館/グローバルコミュニティセンターで開催しました。熊本YMCAの委員、ワイズメンズクラブのほか、関係企業・団体などから37名が参加。今年度の募金額、件数の発表の後、熊本YMCA副会長の守田富男さんによるお祈りをもって会食が始まりました。

募金によって子どもたちのYMCAプログラム参加

費を補助するBAPY(BE A PARTNER OF THE YOUTH)基金の利用者として、2名の子どもがみなみセンターに通っている児童養護施設「藤崎台童園」から職員も参加され「参加費の補助を利用して、子どもたちのやりたいことをかなえられるのは私たち職員にとっても嬉しいことです」と感謝が述べられました。

続いて、目標達成率が上位だった、プログラム会員による募金件数が多かった等、優れた取組みを行った拠点、事業部がそれぞれ表彰され、受賞者に会場から温かな拍手が送られました。



藤崎台童園から参加された職員2名

日本語学校

## 留学生らが学習成果を発表 後輩へのアドバイスも



熊本YMCA学院 日本語科 尾道一幸

熊本YMCA学院日本語科が卒業式を約1週間後に控えた3月4日(火)、日ごろの日本語学習の成果を披露する学習成果発表会を熊本YMCA本館/グローバルコミュニティセンターで開催しました。初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級A、中級Bクラスの代表者は、個人でスピーチを発表。スピーチのタイトルは「私の夢」のように自分や家族にまつわるものから「フェミニズム」のように社会的課題に対する個人的見解の発表など様々で、どれも素晴らしい

内容でした。

一方、中級C、上級Ⅰクラスはパワーポイントのスライドや事前に撮影した動画などを交えてグループによるプレゼンテーションを行いました。内容は日本に来て感じた文化の違いによる戸惑い、日本の規律や礼節を重んじる文化、日本語学習の大切さと効果的な学習方法や教材の紹介など、今後も日本語学習を続けていく後輩にとって大変参考になるものばかりでした。どの発表もユーモアに溢れていて、会場は大いに盛り上がり、大きな歓声と拍手に包まれていました。



環 境

## 園児たちが体験学習 持続可能な農業



YMCA水前寺幼稚園 寒川恵美

「パパはイチゴを作っているよ!」「え! 食べたい!」。子どもたちの会話から始まった水前寺幼稚園の園外保育。園児の保護者の協力のもと、「未来の農業体験プログラム」がスタートしました。ゼブラファーム社のイチゴ栽培は、土や日光に頼らないAI活用による次世代農業です。廃棄されるポリエステル製品を再利用した環境に優しい栽培方法で、SDGsに貢献する持続可能な取組みです。

2月の事前学習でイチゴの成長や授粉について学んだ子どもたちは、3月6日(木)に農園を訪問。実際にイチゴを摘んだり、授粉作業を体験したりしました。自分たちで収穫したイチゴを美味しくように頬張る子どもたち。笑顔あふれる園外保育となりました。園児たちは作物を育てることへの興味を深めたようです。

今後も園では、食品ロス問題の理解や高校生との交流学习、農家とのふれあいなどを通して、子どもたちが楽しく農業について学べる機会をつくっていく予定です。



セミナー

## 企業人らが学ぶ 災害支援と最新技術



YMCAフィランソロピー協会事務局 作本達朗

企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が、3月12日(水)、NTT西日本熊本支店ビルでフィランソロピーセミナー「NTT西日本の通信技術と災害支援 & 10ギガ体験会」を開催しました。

セミナーでは通信インフラの業態から、有事の際の対応や日頃からの備えについて学びを深めました。ビル内にある災害対策室を見学し、広さ・設備に感嘆するとともに、最新の技術が災害時にどのよ

うに活かされるのか、通常業務へどのように落とし込んでいるのかを知る時間となりました。参加者からは「施設設備や日頃からの異業種間の連携について知ることができ良かった」といった声が聞かれました。

災害や有事については日頃からの備えが重要ですが、様々な業種の関係者が集まり共に学ぶことで各業態の中で「じぶんごと」と改めて捉える機会になったようです。今後もこのような「つながり」を継続し、連携を図りたいと思います。



# ～ Let's enjoy dancing !! ～ 第9回ダンスフェスティバル



3月9日(日)、大津町生涯学習センター文化ホールでダンスフェスティバルを開催しました。YMCAのヒップホップ教室、チアダンス教室に通う子どもたちの日頃の練習の成果を発表すること、各拠点の子どもたち同士の親睦を深めることが目的で79名の子どもたちが参加しました。

YMCA子どもプログラムでは随時体験を受け付けています。詳細はWebで▶



## 熊本YMCA学院 医療秘書科 日本医師会 医療秘書認定試験に全員合格



熊本YMCA学院の医療秘書科の2年生が2月に行われた日本医師会医療秘書認定試験で見事に全員合格の快挙を成し遂げました。これを受け、3月13日(木)、くまもと森都心プラザホールで開催された卒業式で熊本県医師会会長の福田桐さんから学生らに日本医師会認定医療秘書の認定書が授与されました。

同学科は2023年度から熊本県医師会の養成委託を受け、全国の医師が本当に求める医療秘書を養成し、初の卒業生輩出となりました。今後も医療現場の人材不足を補うため、また医師の働き方改革の一助として、即戦力として働くことができる医療秘書の養成に努めます。



## わたしと聖句



ゼカリヤ書 8章16節

あなたたちのなすべきことは次のとおりである。互いに真実を語り合え。城門では真実と正義に基づき平和をもたらす裁きをせよ。

### 石川一雄さんという人が在る

ご存じの方も多いとは思いますが、3月11日に石川一雄さんが亡くなられました。狭山事件(1963年埼玉県狭山市で発生した女子高生殺害事件)の容疑者として逮捕され、無期懲役の判決を言いわたされ、半世紀以上の長きにわたり無実を訴え続けた人です。

もちろん直接の知り合いというわけではなく、教会派遣の委員として日比谷野外音楽堂で年に二回行われる集会に参加し、壇上で語る石川さんとお会いするという一方的な関係です。それでも石川さんは私にとって、とても

日本福音ルーテル熊本教会  
小泉嗣

大切な人となりました。なぜなら、見えない手錠をかけられ続け、それでも真実を伝えることの大切さを、静かに力強く語り続ける石川さんは、私が生きている「現在」を指し示してくれるからです。私の住んでいる国はどんな国で、どんな問題があり、私はどのような立場で生きているか、まわりにはどんな人がいるか、等々...、その姿を見、その言葉を聞くにつれ、狭山事件の現状、石川さんのおかれた状況を受け止めつつも、私は自らの現在を確認するのです。

もし3000年前にイスラエルで活躍した預言者が今の世界に現れたとしたら、石川さんみたいな人なのではないかと思えます。神が与えた命を生き、真実を胸に、黙さず、伝え続ける。その言葉は、その存在は、今の世に、後の世にしっかりと受け継がれていくのです。真実に歩んだ石川さんです、神さまのみ許で平和のうちに憩われていることを信じます。

発行所／(公財)熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1  
TEL 096-353-6397(代)

発行人／伊藤 真太郎 編集／熊本YMCA本部事務局  
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



公式LINE

### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動  
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

### 2025年度基本聖句

何事も愛をもって行いなさい  
コリントの信徒への手紙一 16章14節